

「(仮称) ドラッグコスモス美園店」
出店に伴う
大規模小売店舗立地法届出に係る
騒音予測報告書

目 次

1 . 計画概要.....	1
(1) 目的.....	1
(2) 計画施設の概要.....	1
2 . 騒音予測の方法.....	2
2-1. 等価騒音レベルの予測.....	2
(1) 自動車走行騒音.....	2
(2) 自動車走行騒音以外の騒音.....	3
(3) 各種騒音源からの等価騒音レベルの合成.....	4
2-2. 騒音の発生源ごとの騒音レベルの最大値の予測.....	5
(1) 定常騒音源.....	5
(2) 変動騒音源・衝撃騒音源.....	5
3 . 店舗から発生する騒音レベルの設定.....	6
(1) 定常騒音.....	6
(2) 変動騒音・衝撃騒音.....	6
(3) 車両台数の設定.....	7
4 . 予測地点.....	8
5 . 予測結果.....	9
(1) 平均的な状況を呈する日における等価騒音レベルの予測結果.....	9
(2) 夜間において発生する騒音の発生源ごとの騒音レベルの最大値の予測結果.....	9

1. 計画概要

(1) 目的

本書は、大規模小売店舗立地法に基づく届出書を作成する際の騒音予測に関するものです。

「大規模小売店舗を設置する者が配慮すべき事項に関する指針（平成 19 年 2 月 1 日、経済産業省告示第 16 号）」（以下「指針」と述べる）に基づき、施設開業に伴って発生する騒音についての予測・評価を行うことを目的としました。なお、騒音予測の計算手法は「大規模小売店舗から発生する騒音予測の手引き（平成 20 年 10 月、経済産業省商務情報政策局流通政策課）」（以下「手引き書」と述べる）に準じて行いました。

(2) 計画施設の概要

計画施設の概要は下表に示すとおりです。

計画施設の概要

名 称	(仮称) ドラッグコスモス美園店
所 在 地	和歌山県和歌山市美園町四丁目 10 番外
店舗面積の合計	1,330 m ²
小 売 業 者	株式会社コスモス薬品
営 業 時 間	9 時 00 分～21 時 50 分
駐車場利用可能時間帯	8 時 30 分～22 時 00 分
設備機器の稼働時間	8 時 30 分～22 時 00 分（一部、24 時間稼働）
荷さばきを行う時間帯	6 時 00 分～22 時 00 分
廃棄物収集作業時間帯	6 時 00 分～22 時 00 分
用 途 地 域	近隣商業地域、商業地域

2. 騒音予測の方法

2-1. 等価騒音レベルの予測

(1) 自動車走行騒音

変動騒音のうち「敷地内における自動車走行に関する騒音」は、ASJ RTN-Model 2013 の中で示されている考え方や計算式に基づいて予測を行いました。

予測式は以下のとおりです。

$$L_{\text{Aeq},T,\text{vehicle}} = L_{\text{AE}} + 10 \log_{10} \frac{N_T}{T}$$

$$L_{\text{AE}} = 10 \log_{10} \frac{1}{T_0} \sum_i \left(10^{L_{pA,i}/10} \cdot \Delta t_i \right)$$

ここで、

$L_{\text{Aeq},T,\text{vehicle}}$: 自動車走行騒音の等価騒音レベル [dB]

L_{AE} : 単発騒音暴露レベル（ユニットパターンのエネルギー積分値）[dB]

N_T : 時間範囲 T [s] 間の交通量 [台]

T : 対象とする基準時間帯の時間 [s]

（昼間時間帯：57,600 [s], 夜間時間帯：28,800 [s]）

T_0 : 基準時間, 1 [s]

$L_{pA,i}$: i 番目の区間を通過する自動車による予測地点における騒音レベル [dB]

Δt_i : 自動車が i 番目の区間を通過する時間 [s]

パワーレベルが L_{WA} の 1 台の自動車による騒音レベル $L_{pA,i}$ は、無指向性点音源の半自由空間における伝搬を考え、次式で計算しました。

$$L_{pA,i} = L_{WA} - 8 - 20 \log_{10} r_i + \Delta L_{d,i} + \Delta L_{g,i}$$

ここで、

L_{WA} : 自動車走行騒音の A 特性音響パワーレベル [dB]

r_i : i 番目の区間を通過する自動車から予測地点までの距離 [m]

$\Delta L_{d,i}$: i 番目の区間を通過する自動車に対する回折に伴う減衰に関する補正量
（回折補正量）[dB]（負の値）

$\Delta L_{g,i}$: i 番目の区間を通過する自動車に対する地表面効果による減衰に関する補正
量 [dB]（負の値）

なお、予測には回折補正量 ΔL_d を考慮していません。

地表面効果による減衰に関する補正量は $\Delta L_{g,i} = 0$ としました。

本予測では、車両走行路の走行車線をそれぞれ 10 区間（線分）に分割し、各区間の中央に点音源を配置することで（1 路線につき 10 点）、予測地点における各線分からの単発騒音暴露レベル L_{AE} を計算しました。

(2) 自動車走行騒音以外の騒音

○ 定常騒音

空調用室外機、冷凍庫用室外機、換気ファン等の定常騒音源からの等価騒音レベル $L_{\text{Aeq},T,a}$ の予測は以下の式を用いて行いました。

$$L_{\text{Aeq},T,a} = 10 \log_{10} \frac{1}{T} \left(\sum_i T_i \cdot 10^{\overline{L}_{pA,i}/10} \right)$$

$$\overline{L}_{pA,i} = L_{pA,i}(r_0) - 20 \log_{10} \frac{r_i}{r_0} + \Delta L_{d,i}$$

ここで、

- T : 対象とする時間区分の時間 [s] (昼間 57,600[s]、夜間 28,800[s])
- T_i : 対象とする時間区分における i 番目の定常騒音の継続時間 [s]
- $\overline{L}_{pA,i}$: i 番目の騒音源による予測地点における騒音レベル [dB]
- $L_{pA,i}(r_0)$: i 番目の騒音源による基準距離における騒音レベル [dB]
- r_i : i 番目の騒音源から予測地点までの距離 [m]
- r_0 : 基準距離, 1 [m]
- $\Delta L_{d,i}$: i 番目の騒音源に対する回折に伴う減衰に関する補正量 (回折補正量) [dB] (負の値)

○ 変動騒音

荷さばき作業、廃棄物収集作業等から発生する変動騒音の等価騒音レベル $L_{\text{Aeq},T,b}$ の予測は以下の式を用いて行いました。

$$L_{\text{Aeq},T,b} = 10 \log_{10} \frac{1}{T} \left(\sum_j T_j \cdot 10^{\overline{L}_{pA,j}/10} \right)$$

$$\overline{L}_{pA,j} = \overline{L}_{pA,j}(r_0) - 20 \log_{10} \frac{r_j}{r_0} + \Delta L_{d,j}$$

ここで、

- T : 対象とする時間区分の時間 [s] (昼間 57,600[s]、夜間 28,800[s])
- T_j : 対象とする時間区分における j 番目の定常騒音の継続時間 [s]
- $\overline{L}_{pA,j}$: j 番目の騒音源による予測地点における騒音のエネルギー的な時間平均値 [dB]
- $\overline{L}_{pA,j}(r_0)$: j 番目の騒音源による基準距離における騒音のエネルギー的な時間平均値 [dB]
- r_j : j 番目の騒音源から予測地点までの距離 [m]
- r_0 : 基準距離, 1 [m]
- $\Delta L_{d,j}$: j 番目の騒音源に対する回折に伴う減衰に関する補正量 (回折補正量) [dB] (負の値)

○ 衝撃騒音

荷さばき作業等から発生する衝撃騒音の等価騒音 $L_{\text{Aeq},T,c}$ レベルの予測は以下の式を用いて行いました。

$$L_{\text{Aeq},T,c} = 10 \log_{10} \frac{T_0}{T} \left(\sum_k N_k \cdot 10^{L_{AE,k}/10} \right)$$

$$L_{AE,k} = L_{AE,k}(r_0) - 20 \log_{10} \frac{r_k}{r_0} + \Delta L_{d,k}$$

ここで、

- T : 対象とする時間区分の時間 [s] (昼間 57,600[s]、夜間 28,800[s])
- T_0 : 基準時間, 1 [s]
- N_k : 対象とする時間区分において発生する k 番目の衝撃騒音の発生回数
- $L_{AE,k}$: k 番目の騒音源による予測地点における単発騒音暴露レベル [dB]
- $L_{AE,k}(r_0)$: k 番目の騒音源による基準距離における単発騒音暴露レベル [dB]
- r_k : k 番目の騒音源から予測地点までの距離 [m]
- r_0 : 基準距離, 1 [m]
- $\Delta L_{d,k}$: k 番目の騒音源に対する回折に伴う減衰に関する補正量 (回折補正量) [dB] (負の値)

○ 回折補正量 ΔL_d

予測には回折補正量 ΔL_d を考慮していません。

○ 自動車走行騒音以外の騒音の等価騒音レベル

上記で計算した各騒音源の等価騒音レベルを合成し、自動車走行騒音以外の騒音全体の等価騒音レベル $L_{\text{Aeq},T,\text{store}}$ を算出しました。

$$L_{\text{Aeq},T,\text{store}} = 10 \log_{10} \left(10^{L_{\text{Aeq},T,a}/10} + 10^{L_{\text{Aeq},T,b}/10} + 10^{L_{\text{Aeq},T,c}/10} \right)$$

(3) 各種騒音源からの等価騒音レベルの合成

自動車走行騒音の等価騒音レベルと自動車走行騒音以外の騒音の等価騒音レベルを合成して全体としての等価騒音レベル $L_{\text{Aeq},T}$ を算出しました。

$$L_{\text{Aeq},T} = 10 \log_{10} \left(10^{L_{\text{Aeq},T,\text{vehicle}}/10} + 10^{L_{\text{Aeq},T,\text{store}}/10} \right)$$

2-2. 騒音の発生源ごとの騒音レベルの最大値の予測

(1) 定常騒音源

定常騒音源からの騒音レベルは以下の式を用いて予測を行いました。

$$L_{pA,i} = L_{pA,i}(r_0) - 20 \log_{10} \frac{r_i}{r_0} + \Delta L_{d,i}$$

ここで、

$L_{pA,i}$: i 番目の騒音源による予測地点における騒音レベル [dB]

$L_{pA,i}(r_0)$: i 番目の騒音源による基準距離における騒音レベル [dB]

r_i : i 番目の騒音源から予測地点までの距離 [m]

r_0 : 基準距離, 1 [m]

$\Delta L_{d,i}$: i 番目の騒音源に対する回折に伴う減衰に関する補正量（回折補正量）[dB]（負の値）

なお、予測には回折補正量 ΔL_d を考慮していません。

(2) 変動騒音源・衝撃騒音源

夜間時間帯（22 時～翌 6 時）に発生する変動騒音源・衝撃騒音源はありません。

3. 店舗から発生する騒音レベルの設定

(1) 定常騒音

定常騒音源（室外機、換気ファン等）の騒音レベルの設定については、メーカーカタログを用いて設定しました。

定常騒音の継続時間は、発生源となる機器の稼働時間帯において実際には間欠的な運転を行いますが、當時稼働しているものとして設定しました。

(2) 変動騒音・衝撃騒音

自動車走行音の A 特性音響パワーレベルについて、小型車類（来店客車両）は手引き書に示された自動車工学に基づいたパワーレベル式での算出結果を用い、大型車類（荷さばき車両及び廃棄物収集車両）は ASJ RTN-Model 2013 に示された計算式を用いて算出しました。

- ・小型車類（来店客車両走行）

$$L_{WA} = 82 \text{ [dB]} \quad \text{走行速度} = 20 \text{ [km/h]}$$

- ・大型車類（荷さばき車両及び廃棄物収集車両走行）

$$\begin{aligned} L_{WA} &= 53.2 + 30 \log_{10} V \\ &= 92.2 \text{ [dB]} \quad V : \text{走行速度} = 20 \text{ [km/h]} \end{aligned}$$

荷さばき作業及び廃棄物収集作業において発生する騒音レベルの設定については手引き書による値を用いました。また騒音の継続時間・発生回数については以下に示すとおり設定しました。

変動騒音・衝撃騒音発生源の騒音レベル及び継続時間

騒音発生源の種類	騒音のエネルギー的な時間平均値	単発騒音暴露レベル	継続時間又は発生回数	根拠
廃棄物収集作業	89.2	—	180 秒/台	手引き書
荷さばき作業に伴う後進警報ブザー	91.9	—	10 秒/台	手引き書
荷さばき車両のアイドリング	78.6	—	60 秒/台	手引き書
荷さばき台車走行音	85.5	—	60 秒/台	手引き書
荷さばき荷下ろし音	—	85.6	10 回/台	手引き書

※ 騒音レベルは基準距離（1 m）の値、単位は [dB]。

※ 継続時間・発生回数は車両 1 台当たりの値。

※ アイドリング音については、手引き書に A 特性音響パワーレベルで記載されているため、騒音レベルに換算しました。

(3) 車両台数の設定

荷さばき車両台数及び廃棄物収集車両の台数は、店舗計画に基づき以下の表に示すとおり設定しました。

荷さばき車両及び廃棄物収集車両の日台数

時間帯	荷さばき車両台数	廃棄物収集車両台数
6:00 ~ 22:00	5 台	2 台
22:00 ~ 6:00	0 台	0 台
合 計	5 台	2 台

計画施設の駐車場内を走行する車両の騒音予測を行うために、1日当たりの来店客車両台数の設定は立地法指針に基づき以下のとおり設定しました。

なお騒音予測上、来店客車両の全台数が全ての車路を通過するものとして設定しました。

来店客車両台数予測

事 項 等	各事項算出のための計算式の根拠	
当該都市行政人口	356,472 人	和歌山市(令和6年1月1日現在 住民基本台帳)
地区の区分	商業地区	用途地域：近隣商業地域、商業地域
S : 店舗面積	1.330 千m ²	――
A : 日来店客数原単位	1,060 人／千m ²	人口40万人未満、店舗面積5千m ² 未満
L : 駅からの距離	駅から約300m	JR紀勢本線 和歌山駅
C : 自動車分担率	60.0 %	商業地区、人口10万人以上40万人未満、L ≥ 300m
D : 平均乗車人員	2.00 人／台	店舗面積：10千m ² 未満
・日来店客車両台数（休日）	423 台／日	= S × A × C ÷ D

4. 予測地点

大規模小売店舗の施設から発生する騒音全体の予測について、指針では「原則として建物の周囲4方向からそれぞれ近接した最も騒音の影響を受けやすい地点に立地し又は立地可能な住居等の屋外」で行うこととなっています。ただし、住居などの立地が不可能な用途の地域に面している方向については、予測する必要はないとされています。

予測地点の位置については店舗の敷地境界線上に設定することを基本にしましたが、店舗の敷地が道路に面している場合等については、道路を挟んで向かい側を予測地点として設定しました。各予測地点の内容は以下のとおりです。

① 予測地点A

西側代表点。計画地西側は市道新南8号線に面しており、市道を挟んで向かい側には駐車場などが立地しています。予測地点は市道を挟んで向かい側の道路境界線上で、計画地の駐車場出入口①から近い位置に設定しました。予測地点の高さは1.2m（地上）としました。

② 予測地点B

北側代表点。計画地北側は市道新南31号線に面しており、市道を挟んで向かい側には事業所や駐車場などが立地しています。予測地点は市道を挟んで向かい側の道路境界線上で、荷さばき施設から近い位置に設定しました。予測地点の高さは1.2m（地上）としました。

③ 予測地点C

東側代表点。計画地東側には住宅や空地などが立地しています。予測地点は計画地の敷地境界線上で、空調用室外機置場から近い位置に設定しました。予測地点の高さは1.2m（地上）、4.7m（住宅の2階高さ相当）としました。

④ 予測地点D

南側代表点。計画地南側は市道新南33号線に面しており、市道を挟んで向かい側には店舗や事業所などが立地しています。予測地点は市道を挟んだ向かい側の道路境界線上で、室外機置場から近い位置に設定しました。予測地点の高さは1.2m（地上）としました。

⑤ 予測地点a・b・c・d

予測地点A・B・C・Dに対応する計画地側の敷地境界線上に予測地点a・b・c・dを設定し、夜間において発生する騒音の最大値の予測を行いました。

5. 予測結果

(1) 平均的な状況を呈する日における等価騒音レベルの予測結果

予測地点	用途地域	昼 間		夜 間	
		環境基準	等価騒音 レベル	環境基準	等価騒音 レベル
A (H=1.2m)	近隣商業地域	60 dB [C類型]	43.1 dB	50 dB [C類型]	27.6 dB
B (H=1.2m)			51.3 dB		35.5 dB
C 1 (H=1.2m)			48.3 dB		36.7 dB
C 2 (H=4.7m)			48.9 dB		36.8 dB
D (H=1.2m)	近隣商業地域		44.5 dB		32.5 dB

※騒音レベルの予測計算には回折補正量を考慮していません。

等価騒音レベルの予測の結果、昼間、夜間ともに全ての地点で環境基準を下回ります。
したがって、周辺住宅への著しい影響はないものと考えております。

(2) 夜間ににおいて発生する騒音の発生源ごとの騒音レベルの最大値の予測結果

予測地点	用途地域	夜 間	
		規制基準	騒音レベル 最大値
a (H=1.2m)	近隣商業地域	55 dB [第3種区域]	23 dB
b (H=1.2m)			42 dB
c 1 (H=1.2m)			36 dB
c 2 (H=4.7m)			39 dB
d (H=1.2m)	近隣商業地域		30 dB

※騒音レベルの予測計算には回折補正量を考慮していません。

騒音レベル最大値の予測の結果、全ての地点で規制基準を下回ります。
したがって、周辺住居への著しい影響はないものと考えております。

周辺見取図

S = 1 : 2,000



商業地域

計画地

近隣商業地域

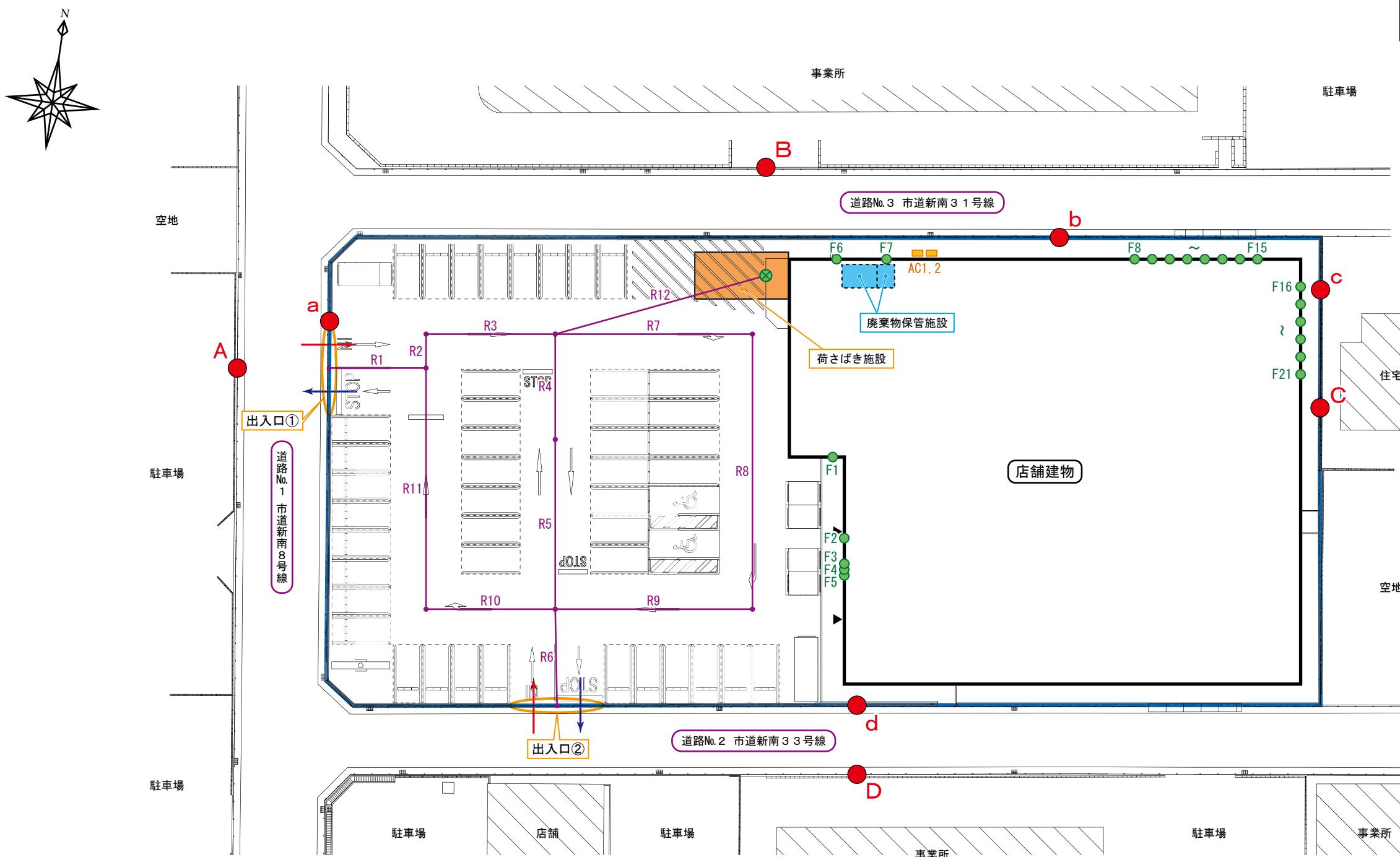
準工業地域

■ 凡例 ■

	計画地
	住宅など
	併用住宅など
	店舗・事業所など
	クリニックなど
	福祉施設など
	倉庫・車庫など
	駐車場出入口
	用途地域境界
	通学路
	騒音予測地点

騒音発生源位置図(1階)

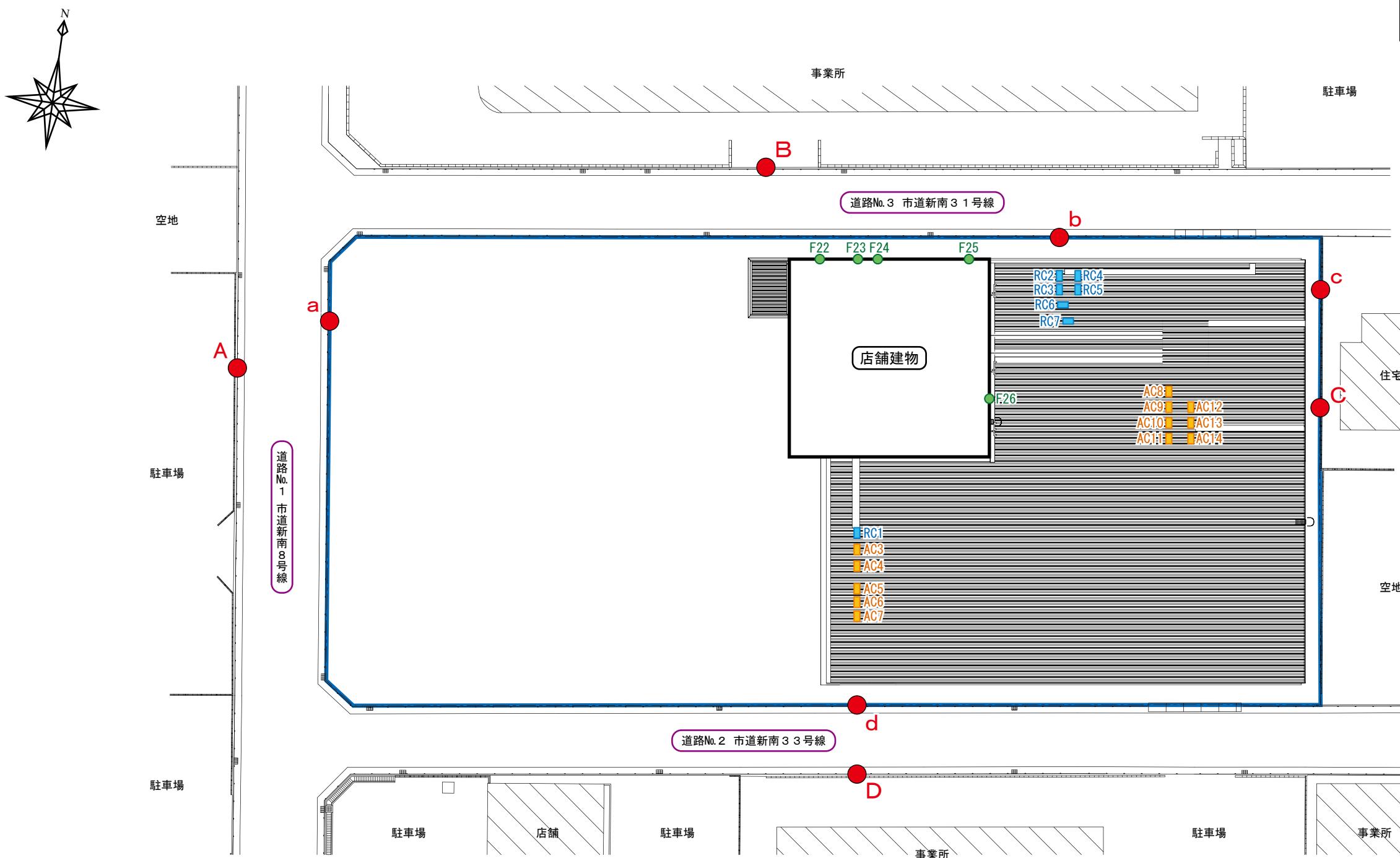
S=1 : 400



- | ■ 凡 例 ■ | |
|---------|-------------|
| ■ | : 敷地境界線 |
| ○ | : 駐車場出入口 |
| □ | : 荷さばき施設 |
| ■ | : 廃棄物保管施設 |
| ■ | : 空調用室外機 |
| ● | : 換気ファン |
| ● | : 荷さばき等作業位置 |
| — | : 車両走行路 |
| ● | : 騒音予測地点 |

騒音発生源位置図(2階)

S=1 : 400



- | ■ 凡例 ■ | |
|--------|-----------|
| —— | : 敷地境界線 |
| ■ | : 空調用室外機 |
| □ | : 冷凍庫用室外機 |
| ● | : 換気ファン |
| ● | : 騒音予測地点 |

「(仮称) ドラッグコスモス美園店」

騒音予測計算表

■騒音発生源一覧表

騒音源		場所	メーカー名	型式	出力 (kW)	基準距離(1m) における騒音 レベル(dB)	備考	稼働予定 時間帯 (時)
空調用室外機	AC1	1階	東芝	RAS-4015AT	0.80	52.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC2	1階	東芝	RAS-3615AT	0.80	50.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC3	屋根上	東芝	ROA-RP1122H	2.50	58.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC4	屋根上	東芝	ROA-RP2803HS	7.16	63.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC5	屋根上	東芝	ROA-RP803HS	1.65	54.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC6	屋根上	東芝	ROA-RP563HS	1.11	47.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC7	屋根上	東芝	ROA-RP1601H	4.06	58.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC8	屋根上	東芝	ROA-RP2803HS	7.16	63.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC9	屋根上	東芝	ROA-RP2803HS	7.16	63.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC10	屋根上	東芝	ROA-RP2803HS	7.16	63.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC11	屋根上	東芝	ROA-RP2803HS	7.16	63.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC12	屋根上	東芝	ROA-RP2243HS	4.74	60.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC13	屋根上	東芝	ROA-RP2243HS	4.74	60.0	メーカー値	8.5 ~ 22
空調用室外機	AC14	屋根上	東芝	ROA-RP2243HS	4.74	60.0	メーカー値	8.5 ~ 22
冷凍庫用室外機	RC1	屋根上	パナソニック	OCU-KR200F	1.19	54.0	メーカー値	0 ~ 24
冷凍庫用室外機	RC2	屋根上	パナソニック	OCU-KR200F	1.19	54.0	メーカー値	0 ~ 24
冷凍庫用室外機	RC3	屋根上	パナソニック	OCU-HR400VFS	3.30	59.0	メーカー値	0 ~ 24
冷凍庫用室外機	RC4	屋根上	パナソニック	OCU-KR200F	1.19	54.0	メーカー値	0 ~ 24
冷凍庫用室外機	RC5	屋根上	パナソニック	OCU-HR400VFS	3.30	59.0	メーカー値	0 ~ 24
冷凍庫用室外機	RC6	屋根上	パナソニック	OCU-HS1501VFA	7.46	50.5	メーカー値	0 ~ 24
冷凍庫用室外機	RC7	屋根上	パナソニック	OCU-HS2001MVFA	7.46×2	52.5	メーカー値	0 ~ 24
換気ファン	F1	1階	東芝	DVF-T18RVDA	0.0285	31.0	メーカー値	0 ~ 24
換気ファン	F2	1階	東芝	DVF-G14VS	0.020	32.0	メーカー値	0 ~ 24
換気ファン	F3	1階	東芝	DVF-G14VS	0.020	32.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F4	1階	東芝	DVF-G10VS4	0.013	31.5	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F5	1階	東芝	DVF-G10VS4	0.013	31.5	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F6	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	0 ~ 24
換気ファン	F7	1階	東芝	DVF-T10CL	0.0116	26.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F8	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F9	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F10	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F11	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F12	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F13	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F14	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F15	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	0 ~ 24
換気ファン	F16	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	0 ~ 24
換気ファン	F17	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F18	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F19	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F20	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F21	1階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F22	2階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F23	2階	東芝	DVF-G10VS4	0.013	31.5	メーカー値	8.5 ~ 22
換気ファン	F24	2階	東芝	DVF-G14VS	0.020	32.0	メーカー値	0 ~ 24
換気ファン	F25	2階	東芝	DVF-G14VS	0.020	32.0	メーカー値	0 ~ 24
換気ファン	F26	2階	東芝	DVF-25FVD10	0.090	45.0	メーカー値	0 ~ 24

別表1. 来店客車両走行の等価騒音レベル計算表

路線 No.	起点座標 (m)			終点座標 (m)			通過 交通量 (台/昼間)	等価騒音レベル [昼間] : LAeq (dB)				
	X	Y	Z	X	Y	Z		A H=1.2m	B H=1.2m	C 1 H=1.2m	C 2 H=4.7m	D H=1.2m
R1	13.5	42.9	0.0	21.8	42.9	0.0	846	36.3	26.0	19.3	19.3	22.8
R2	21.8	42.9	0.0	21.8	45.8	0.0	423	25.4	19.3	12.0	12.0	15.4
R3	21.8	45.8	0.0	32.8	45.8	0.0	423	29.1	27.0	18.7	18.6	21.9
R4	32.8	45.8	0.0	32.8	36.8	0.0	423	26.0	26.4	18.4	18.4	22.3
R5	32.8	36.8	0.0	32.8	22.3	0.0	846	30.2	28.9	23.4	23.4	29.4
R6	32.8	22.3	0.0	33.0	14.1	0.0	846	26.1	24.3	20.7	20.7	28.6
R7	32.8	45.8	0.0	49.7	45.8	0.0	423	26.6	32.7	22.4	22.3	25.1
R8	49.7	45.8	0.0	49.7	22.3	0.0	423	25.8	31.5	25.0	25.0	30.9
R9	49.7	22.3	0.0	32.8	22.3	0.0	423	25.3	25.6	22.0	22.0	30.7
R10	32.8	22.3	0.0	21.8	22.3	0.0	423	26.2	22.7	18.4	18.4	25.0
R11	21.8	22.3	0.0	21.8	42.9	0.0	423	32.7	26.4	20.6	20.6	25.4
来店客車両走行の等価騒音レベル [昼間] : LAeq								40.3	38.3	31.5	31.5	37.4

(備考) 騒音レベルの予測計算には、回折補正量を考慮しておりません。

夜間時間帯（22時～翌6時）に、来店客車両の走行はありません。

別表2. 荷さばき等車両走行の等価騒音レベル計算表

路線 No.	起点座標 (m)			終点座標 (m)			通過 交通量 (台/昼間)	等価騒音レベル [昼間] : LAeq (dB)				
	X	Y	Z	X	Y	Z		A H=1.2m	B H=1.2m	C 1 H=1.2m	C 2 H=4.7m	D H=1.2m
R1	13.5	42.9	0.0	21.8	42.9	0.0	14	28.7	18.4	11.7	11.7	15.2
R2	21.8	42.9	0.0	21.8	45.8	0.0	7	17.8	11.7	4.4	4.3	7.8
R3	21.8	45.8	0.0	32.8	45.8	0.0	7	21.5	19.4	11.0	11.0	14.3
R4	32.8	45.8	0.0	32.8	36.8	0.0	21	23.1	23.6	15.5	15.5	19.4
R5	32.8	36.8	0.0	32.8	22.3	0.0	7	19.6	18.3	12.8	12.8	18.7
R10	32.8	22.3	0.0	21.8	22.3	0.0	7	18.6	15.1	10.8	10.8	17.4
R11	21.8	22.3	0.0	21.8	42.9	0.0	7	25.1	18.8	13.0	13.0	17.8
R12	32.8	45.8	0.0	50.8	50.8	0.0	14	22.4	30.7	18.3	18.3	20.5
荷さばき車両等走行の等価騒音レベル [昼間] : LAeq								32.6	32.4	22.7	22.7	26.6

(備考) 騒音レベルの予測計算には、回折補正量を考慮しておりません。

夜間時間帯（22時～翌6時）に、荷さばき等車両の走行はありません。

